



実の大きさを見比べながら摘果作業をする児童

真っ赤でおいしいリンゴになあれ！ 鮎貝小学校児童がリンゴ摘果体験

6月14日、鮎貝小学校の3年生24人が学校近くのりんご園でリンゴの摘果作業を行いました。

これは町土地改良区が主催する事業の一つで、町内でリンゴ農家を営む熊坂嘉代司さん（高岡）が、児童たちに摘果をする理由とやり方を指導しました。木の低いところから高いところまで、協力しながら手際よく作業を行った児童たち。摘み取った青くて小さな実をかじってみた児童は「うわ。しぶい」と顔をしかめました。児童たちは今後、リンゴが赤く色づくように9月に葉摘み作業を行います。

「今、この時代に生きる子どもたちに寄り添うために」 岡田沙織氏 研修会を開催

6月30日、置賜地区青少年育成連絡協議会・置賜社会教育振興会・白鷹町青少年育成町民会議・置賜地域人権啓発活動ネットワーク協議会合同研修会があゆ一むで開催されました。

研修会では、NPO法人若者メンタルサポート協会理事長の岡田沙織さんが「今、この時代に生きる子どもたちに寄り添うために」と題して講演。岡田さんは、さまざまな悩みを抱えながら生きている若者たちの事例を紹介しながら「悩みの根源には家庭環境に問題があるケースが多い」と説明。そして、「大人の満たされない思いを子どもに押し付けてはダメ。大人は自身自身にゆとりを持つことが大事」と提言しました。



自身の壮絶な人生経験も話に織り交ぜながら講演する岡田さん



参加者の興味を引きながら「食育」を語る柴田さんとウサヒ

白鷹学講座パート1 食育トークセッション「食育プロレス」

平成30年度の第1弾となる白鷹学講座「食育プロレス」が6月28日、あゆ一むで開催されました。

この日は、プロレスラーに扮した大分県佐伯市役所の柴田真佑さんと、朝日町のご当地キャラクター桃色ウサヒが「食育」について90分3本勝負のトークバトルを繰り広げました。1・2ラウンドでは、2人が食育についての疑問や思い、考えを語りあい、3ラウンドでは参加者から出された疑問にわかりやすく答えました。参加者は2人のやり取りに聞き入り、白鷹町で無理をせずにできるそれぞれの「食育」について考えていました。

きれいなお花だぁ～い好き！ 保育園で花の植栽活動

町土地改良区主催による花の植栽活動が6月5日にさくらの保育園で、15日にひがしね保育園で行われました。

ひがしね保育園では年長児と年中児合わせて34人が参加。土地改良区の職員から植え方を教えてもらおうと、早速マリーゴールドとサルビアの花を自分のプランターの前に持ってきて、1株ずついいねいに植えました。園児たちは「上手にできた！」「楽しかった！」と花を見てニコリ。最後にプランターを園舎の前に並べ、じょうろでたっぷりと水をあげました。



教えてもらったとおりに優しく花を植える園児たち



「ともに考え、行動することの大切さ」をテーマに講演する大貫さん

社会を明るくする運動 地域で見守り、犯罪や非行を防ごう

7月2日、第68回社会を明るくする運動白鷹町住民集会在健康福祉センターで開かれました。

この運動は、地域の人たちがそれぞれの立場で力を合わせ、犯罪のない明るい社会を築くことを目的としたものです。この日は、佐藤誠七町長と遠藤幸一議長に内閣総理大臣メッセージが伝達され、その後、保護司会と更生保護女性会会員などが街頭啓発隊として町内の学校や銀行などを巡回。集会では、山形歯科専門学校校長の大貫英一さん（荒砥在住）による記念講演が行われ、参加者に「（明るい社会のために）ともに考え合うことが大事」と呼びかけました。

感謝とお礼の気持ちを込めて しらたかFACTORY利用者が清掃活動

5月30日、しらたかFACTORYの利用者が国道348号周辺でゴミ拾いのボランティア活動を行いました。

しらたかFACTORYは、平成29年2月に旧鷹山小学校を利用して開所した就労継続支援B型の事業所で、当ボランティア活動は、町や鷹山地区の方々からの協力に対し、感謝とお礼の気持ちを込めて行っているものです。3回目の今回は利用者3人が参加。「1回目に行ったときは目に余るほどゴミがひどかったが、きれいになったおかげでゴミを捨てる人が減ったように感じる」と笑顔で周りを見渡しました。



人目につきにくい場所のゴミもくまなく拾い上げた